

(3) みどりの食料システム戦略の推進 ～ 生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現 ～

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工 流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

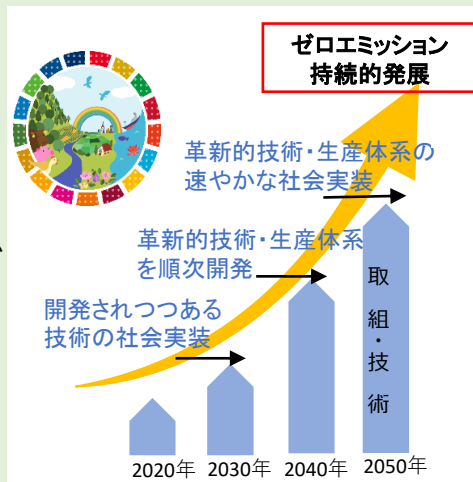
目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿

- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大など

戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
 2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、
 今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）など



東海農政局では、「みどりの広場」をWebサイトに公開し、みどりの食料システム戦略に関連する管内の取組内容、みどりの食料システム法※などの情報をまとめています。



◀ みどりの広場 Webサイト
 🔍 東海農政局

環境負荷低減に向けた取組を推進するため、「みどりの食料システム法」が令和4年7月1日に施行 認定制度



予算・税制・融資で促進

R5年度補正予算、R6年度予算
 みどり投資促進税制

日本政策金融公庫等
 による資金繰り支援

環境負荷低減のクロスコンプライアンス

農林水産省の全ての補助事業等において、チェックシート方式により、最低限行うべき環境負荷低減の取組の実践を要件化。（R6～8年度 試行実施）



最低限行うべき環境負荷低減の取組



※ 環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律

東海地域における取組

1. 栽培暦の点検・見直し

JAにしみの水田農業グリーンな栽培体系研究会 (岐阜県大垣市他)

- 水稲、小麦、大豆の2年3作体系で水田経営が行われる本地域は、長年の田畑転換に伴う地力の低下が大豆の収量低下を引き起こす要因となっていると考えられます。
- また、近年の肥料高騰や異常気象等の影響で、小麦、大豆では収量の低下や生産費の増加が課題となっています。今後も持続可能な農業経営を行うためには、小麦、大豆の肥培管理を見直し、実需者に評価される収量と品質を確保した上で、環境負荷低減に資する生産体系へ切り替えることが求められています。

取組内容

- 小麦では、基肥で使用するプラスチックコーティング肥料を加水分解性肥料に置き換えることで収量や品質に与える影響を調査し、プラスチック資材からの転換について検証。
- 大豆では、堆肥入り資材や鶏糞・牛糞など家畜由来の堆肥による地力向上と収量の関係性を調査し、化学肥料の削減効果について検証。
- 管内全域で土壌診断を実施し、診断結果に基づいた肥料や土壌改良資材の投入を行うことが、資材コストや作業時間の削減に与える効果について検証。
- 検証結果を基に栽培暦の見直しの実施。

① 土壌診断に基づく施肥



② 土壌改良・堆肥資材等の導入



③ 代替資材(加水分解性肥料等)の導入



2. 有機農業の取組の拡大

白川町有機の里づくり協議会(岐阜県白川町)

- 白川町では、NPO法人ゆうきハートネットが中心となって従来から有機農業が盛んで、学校給食への食材供給やオーガニックファーマーズ朝市村等の販売先は確立しているが、更なる産地の発展に向け、個々で行っている生産物の配送の効率化や加工品の開発、慣行農業者との連携、地域の未利用資材の循環等が求められています。
- このため、関係者からなる協議会を設置し、有機農産物の生産から流通・加工までを一貫して行える仕組みづくりを検討し、有機農業の取組の拡大を進めています。

取組内容

○生産:

- ・町内の未利用有機質資材を活用した堆肥の生産体制の整備。
- ・有機農業の新規就農者の育成。
- ・慣行農業者(営農組織)との地域の有機農業のあり方について意見交換の実施。

○加工・流通:

- ・給食センターや販売業者等への集荷・配送等の流通システム構築。
- ・有機農産物を活用した加工品の開発。

○消費:

- ・ブランド構築のためのキャッチコピーやロゴマークの作成及びその活用。
- ・小学校での食育授業や一般消費者等を対象とした有機農業イベントの開催。



【NPO法人ゆうきハートネット】



【未利用有機質資材の活用】



【農業研修交流施設】

①研修会・セミナーの開催

スマート農業推進フォーラム2023in東海
～スマート農業ではばたくみどりの食料システム戦略～

12月5日(火)
開場11時
場所：名古屋国際センター
フォーラム：別棟ホール
展示：4階展示室1～3

みどりの食料システム戦略の実践・普及に向けた勉強会

環境にやさしい・省力化
**グリーンな栽培体系の
取組拡大に向けて**

参加費 無料

参加者 募集

■日時：10/4(水) 13:30～14:30
■開催方法：Webex Meetingsによるオンライン開催(定員200名)
■対象者：農業者、農業関係団体、県、市町村等
■参加費：無料

技術的な面から「みどりの食料システム戦略」への理解を深めるための研修会を開催

みどりの食料システム戦略の実践・普及に向けたセミナー

～食産連携推進者から学ぶ～

**有機農業の取組拡大に向けた
販路確保について**

日時：2024年 **2月16日(金曜日)** 13:30～15:15

対象者：農業者、農業関係団体、県、市町村等

参加方法：「Webex Meetings」によるオンライン開催(定員200名)

参加費 無料

取組紹介・説明者
テーマ「有機農産物の調達方法、取扱基準等について」

生活協同組合連合会アイチョイス 商品部係長 神谷 清光 氏	株式会社 旬家農 商品部長 後藤 勝彦 氏
---	---------------------------------

有機農業の取組拡大に向けた販路確保についてのセミナーを開催

有機農業の取組拡大に向けた販路確保についてのセミナーを開催

②ホームページでの情報提供

東海農政局

特設サイト「みどりの広場」を開設

みどりの戦略 学生チャレンジ

～「みどりの食料システム」の確立を目指して～

第1回みどり戦略学生チャレンジや、環境負荷低減の取組の「見える化」、みどりの食料システム法などについて情報提供

詳細はこちら

③みどりtokai2023によるPR活動



大学イベントにおいて、学生や消費者へ向け、クイズなどを通じた分かりやすいPRを実施



生活協同組合コープあいち・コープ日進店と連携して「みどりの食料システム戦略」をPR

「みどりtokai2023」：「みどりの食料システム戦略」を広めるため、東海農政局の若手職員で構成したチーム SNSや各種イベントにて、生産者や消費者向けに情報発信する活動を展開中

④有機農産物等の取扱事業者の店舗情報を紹介

東海農政局管内で有機農産物等を取扱う小売店、外食店等の店舗情報をマップ化して掲載

有機農産物・環境にやさしい農産物を取扱っているお店

イオン 豊川店 住所：豊川市東通2-21 電話：0533-49-4121	イオンスタイル新豊川 住所：豊川市山崎町1-16 電話：0533-49-2577
グリーンセンター豊川 住所：豊川市馬場町上段600 電話：0533-56-7960	マックスバリュ 豊川八幡店 住所：豊川市八幡町下天王15 電話：0533-56-7960
あいち生協豊川センター 住所：豊川市本郷分署一丁目36 電話：0520-92-1252	

マップをクリックで店舗情報へ